



続 “サラリーマン帝王学のすすめ”

～その後のエピソード～

SAM広島支部長

㈱ロジタント 代表取締役

吉田 祐 起

※※※※※

デフレ経済のもと、企業倒産やリストラ旋風で閉塞感に喘ぐ世のサラリーマン諸氏に活力と希望とプライドを持って欲しいということから、「サラリーマン帝王学のすすめ」というキーワードを思いついて書いたのが前月号でした。

そんな折、関連する愉快的雑誌記事に接しました。「週刊ポスト」誌の7回シリーズ「新・脱サラ研究」がそれです。多くの脱サラ経験者の紹介がある中で、第1回は「サラリーマンよ！50歳で会社から『大脱走』しよう」です。その中に、コレだ！と思わず声を出したものがあります。「サラリーマン大脱走のすすめ」（関根 進氏著・日経BP社刊）の紹介がそれでした。第5回目に掲載された著者の関根 進さん（ライフスタイル評論家）と堀 紘一さん（ドリームインキュベータ社長）の対談が傑作でした。

堀さん曰く、「サラリーマン大脱走は大いに結構。だけど、やっぱり脱走する前に勉強しろといたいですね。“脱走”の前は監獄にいるわけでしょう？ 監獄って割合時間があるじゃない（笑）」がそれでした。

「脱走する前に勉強しろ」とは、私が主張する「在職（社）中に帝王学を学べ」に通じると確信するのです。「監獄にいる」は皮肉なことですが、「会社に在職中」と置き換えられます。在職中に思い切り勉強し、人脈も広げるなど帝王学を学ぶ機会はいくらでもある！ と言いたいのです。同じ「脱サラして起業」でも、「大脱走」はnegative（失礼!?）、「帝王学」はpositiveと自画自賛しているのです。

折しも、週刊「ダイヤモンド」の特集が目につきました。「正社員、続けますか 雇われない生き方」がそれです。23人の脱サラ起業家を紹介しています。共通した根性は「会社より自分」を選び、やりたい仕事をやる幸福」と見受けま

す。「会社というものは既製服。着る者が体に合わせるものだ」に対して、「それはおかしい。体に合った服を作ればいいじゃないか」といった愉快的発想を持つ人たちです。

その特集記事の片隅に「独立の国、アメリカとの格差は大きい」と題した、「日米の開業率の推移」という図表が目につきました。過去10年間、開業率が13.4%で推移しているアメリカに対して日本のそれは3%（製造業）、5%（卸売・小売業・飲食店）、6%（サービス業）各前後と推移しているのです。もっとも、日本の場合は「廃業率」がそれらを大きく上回っており、対してアメリカのそれは絶えず開業率より下回っていることに大きな格差があります。

文部科学省の調査によると、働かない若者が年28万人に急増しています。卒業後、進学も就職もしない「無業者」は、大卒で21.7%、高卒で10.5%です。開業率の低調さも含め、このままでは日本人は三流、四流国民になってしまいかねません。

経営者の立場にある私たちは、何としても従業員諸氏にこうした現実を熱っぽく語り伝え、やる気を持たすことが肝要です。キーワード「サラリーマン帝王学のすすめ」が活きると思うのです。

懸案の単行本原稿「ザ・プロフェッショナルズ」トラックドライバー帝王学のすすめ」を脱稿しました。企画出版で年内の実現を目指しています。ある大企業でリストラされ、ドライバーに職業替えした中高年の人物がその初期原稿の一部を読んで、私にふと漏らしました。“ヨシダ先生、もっと早くこの原稿に接していたら、私の人生は大きく変わっていたと思います。残念です。でも、これからガンバります”と。

（2002年10月19日記）